

望まない妊娠で生まれた児と母親の精神保健に関する研究

上林靖子（国立精神・神経センター精神保健研究所）

要約 首都圏の市部の住宅地区で2-3才児を持つ母親を対象に児と母親の精神保健について郵送法により調査を行い、726人(66%)からの回答を得た。妊娠時の子どもを持つことについての意識により、unwanted群、mistimed群、intended群に分けて、人口統計学的変数、妊娠中のケアから現在までの児と母親の心身の健康について分析した。その結果以下の所見を得た。①unwanted群5%、mistimed20%で4人に一人は望まない妊娠の結果生まれていた。前者は主として第3子-4子高年の母親で、後者は第1子で若年の母親であった。②これらの群は妊娠中の検診や母親学級の利用が少なく、飲酒・喫煙の経験多く、心理的なストレスを多く体験していた。③mistimed群は育児に不安と負担感を強く感じており、unwanted群は児との関係が希薄である傾向があった。④両群は出生後にもストレスとなる体験が多かった。⑤これらの母親は調査時点で、神経症的な訴えを多く有しており、児は攻撃的・破壊的な問題行動を示しているというものが多かった。これらの結果を基に、望まない妊娠で生まれた児と母親の家族と精神保健的リスクについて考察した。

key words: unintended pregnancy, infantile/maternal mental health, general population survey.

I. はじめに

生殖をめぐる科学が急速に進歩したにもかかわらず、現代社会では、児の誕生が父母に望まれないことが少なくない。子どもにとって、両親に祝福され生をうけることはこの上ない幸福のあかしである。しかしながら、近年わが国では、両親が健在でありながら乳児院・養護施設に措置される子どもたちや、家庭内で親によって虐待される子どもたちが増えている。望まない妊娠での出生であることがこれらの重要な背景要因としてしばしば指摘されてきた。この問題は精神保健意関連する重要な問題である。しかしながら、これらの子どもたちとその両親の精神保健の実態は、これまで我が国ではほとんど報告されてこなかった。

この研究は、次の点を明らかにするために企画された。①望まない妊娠で生まれる子どもの出現率を明らかにする。望まない妊娠は②妊娠中のケアと関連にどのような影響があるか。③乳児期の保育と成長発達にどのような関連が見られるか。④2-3才という幼児期早期の情緒と行動の問題にどのような影響を及ぼしているか。⑤母親の精神保健とどのような関連があるか。これらの結果は、望まない妊娠で生まれた子どもとその母親への援助のあり方について重要な基礎的資料になるであろう。

II. 「望まない妊娠」の定義とそのとらえ方

子どもの妊娠が親によって望まれたものであるか否かを捉えるには、いくつかの困難がある。第1に、回顧的にとらえざるを得ないことである。第2には、妊娠に対する気持ち

は変化し、ときにはアンビバレントなことがある。出産時点でとらえるのか、妊娠の初期にとらえるのか、その間のいずれかなどによって異なった態度が見られることもあり得る。ついで、誰が望んでいたか、母親か父親か、あるいは両者か。もし望んでいたとしたら、それはどのような動機からか。ここでは、合衆国のNational Survey of Family Growth (NSFG) にならって、受胎時に妊娠が期待されていたか否かをもとに、操作的に次のとおり規定した。

①望まない妊娠 (unwanted pregnancy) は、受胎したと分かったとき、あるいはその前に妊娠を望んでいなかったもの。②早すぎた妊娠 (mistimed pregnancy)、いつかは子どもを持ちたいと思っはいたが、時期が早すぎたもの。③望んだ妊娠 (intended pregnancy) 子どもをほしいと思っはおり、ちょうど望んでいた時期であったかそれよりも遅かった、あるいは時期にはこだわっはいなかったもの。この研究では望む望まないの主体は母親とした。

Ⅲ. 研究の方法

調査票の作成：この調査のために調査票「幼児の精神保健に関する調査」を作成した。このおもな内容は、A. 対象児とその家族人口統計学的事項、B. 子どもの妊娠・妊娠中のこと、C. 出生時のこと、D. 生後3ヶ月まで、既往歴、気質、母親の気持ち、E. 4ヶ月以降のこと、発達歴、既往歴、F. 生活環境、G. GHQ短縮版、H. 夫婦間の会話、I. 2年間のライフイベントについて、などである。これに加えて、AchenbachによるCBCL日本語版 (CHILD BEHAVIOR CHECKLIST 2-3AGES: 日本語版精神保健研究所) をもちいて児の精神健康を測定した。

調査対象：首都圏の一市の住宅地を選び、住民基本台帳から、調査開始時に2歳0ヶ月から3歳11ヶ月の幼児を抽出した。調査期日は、1995年8-9月である。調査は郵送法によった。

Ⅳ. 結果

1. 調査票の回収：

配布された調査票は、1075部、回収された調査票は738部であった。うち、調査対象年齢外の子ども、キー項目に無回答であった12例をのぞき、有効回答は726部 (回収率66%) であった。男児376人女児348人 (不明2) である。

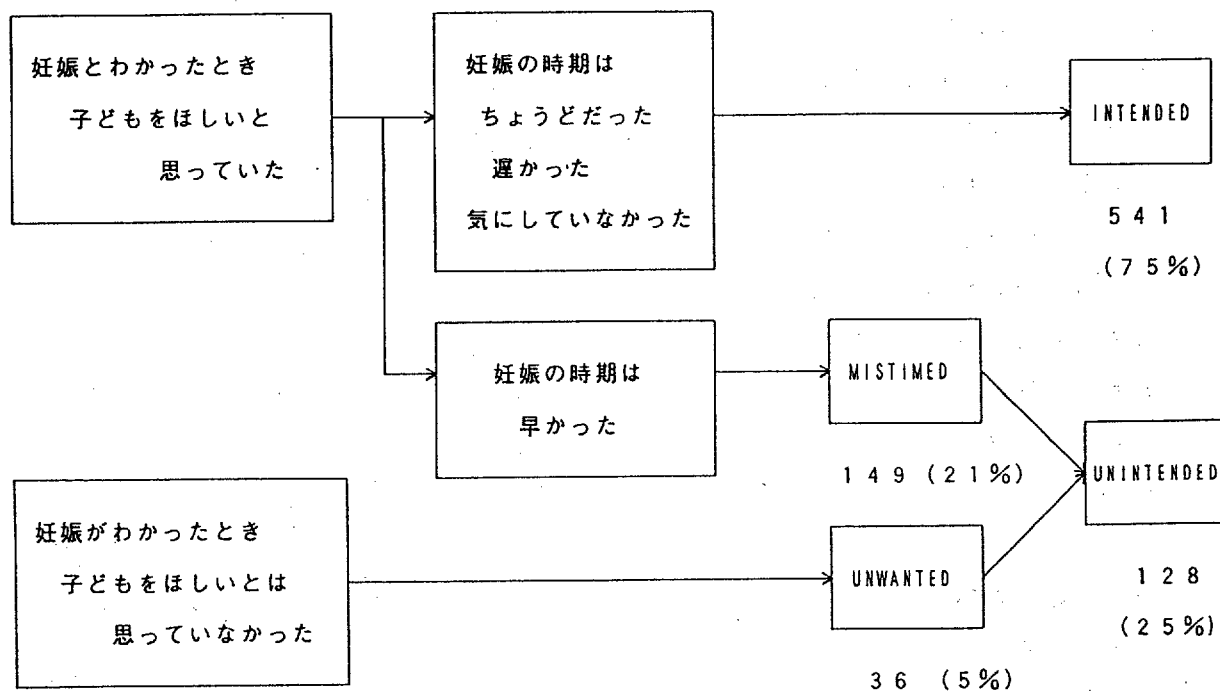
2. unwanted pregnancy, mistimed pregnancyで生まれた子どもの出現率 (表1)

intended pregnancyとunwanted, mistimed pregnancyを区別する質問は、つぎの2つである。4-1妊娠がわかったとき、赤ちゃんをほしいと思っはいましたか。この質問に、「はい」と解答した方に、4-2お子さんの妊娠は①予定より早かった、②ちょうどだった、③遅かっ

た、④気にとめていなかった。4-1に「いいえ」と回答したものを“unwanted”、4-1に「はい」かつ4-2に「早かった」と回答した者を“mistimed”、4-1に「はい」、4-2に「ちょうどだった」、「遅かった」、「気にとめていなかった」というものをintendedとした。

有効回答者726人のうち、541人(75%)はintended pregnancy(以下intended群)、149人(21%)がmistimed pregnancy(以下mistimed群)、36人(5%)がunwanted pregnancy(以下unwanted群)であった。

表1 望まない妊娠で生まれた子ども



3. 家族について (表2)

3つの群について、父親母親の年齢・学歴・出生順位を表2に示した。以下統計処理はワークステーション上でSPSSv6.0により行った。単親家庭は、16人(2%)、3群間に有意な差は認められなかった。父親の年齢は、unwanted群は、41歳以上が25%、mistimed群7%、intended群14%であった。30歳以下がunwanted群12%、mistimed群34%、intended群14%であった。unwanted群は41歳以上の高年齢者、mistimed群は30歳以下の若年者の占める割合が大きく、3群の年齢分布の差は統計学的に有意であった

(χ^2 検定: $P < 0.001$)。母親では、36才以上が、unwanted群39%、mistimed群4%、intended群20%であった。3群の年齢分布には有意な差が認められた(χ^2 検定: $P < 0.001$)。父母の学歴は3群には有意な差が認められなかった。

出生順位: unwanted群は第3子31%、第4子17%、mistimed群は第1子25%が多

く、3群に有意な差が認められた (χ^2 $p < 0.001$)。

4. 妊娠中のケア (表3)

妊婦検診の回数: unwanted群は7回以下が17%、intended群は8回以上が97%をしめていた (χ^2 : $p < 0.01$) 母親学級についても、unwanted群は不参加者が71%と3群の間に有意な差が認められた (χ^2 : $p < 0.05$)。妊娠中の喫煙、飲酒では、unwanted群で、喫煙者28%、飲酒47%であり、3群間の差は有意であった (喫煙 χ^2 : $p < 0.0$ 、飲酒 χ^2 : $p < 0.01$)。

5. 妊娠中の精神保健について (表4)

これに関しては6項目の質問を用いた。このうち、妊娠したとわかった時うれしかったという設問に、unwanted群の25%、mistimed群の56%は「はい」と肯定的な回答をしていた。intended群は94%が肯定的であった。生まれてくる子どものことが楽しみだったという見への期待は、unwanted群79%、mistimed群84%、intended群98

表2 家族について

父親の年齢	unwanted	mistimed	intended	total	chi-sqar
21-25	6%	6%	1%	2%	***
26-30	8%	28%	11%	14%	
31-35	33%	42%	43%	43%	
36-40	28%	17%	31%	28%	
41-45	17%	4%	10%	9%	
46-	8%	3%	4%	4%	
母親の年齢					
-20	0%	1%	0%	0%	***
21-25	6%	16%	3%	6%	
26-30	19%	38%	24%	27%	
31-35	36%	41%	52%	49%	
36-40	28%	4%	17%	15%	
41-45	8%	0%	3%	3%	
46-	3%	0%	0%	0%	
父: 学歴					
中学	8%	7%	4%	4%	
高校	33%	28%	22%	24%	
専門学校	6%	5%	7%	6%	
大学	44%	54%	62%	59%	
不明	8%	7%	5%	6%	
母: 学歴					
中学	6%	5%	3%	3%	
高校	50%	32%	31%	32%	
専門学校	8%	19%	15%	16%	
大学	28%	38%	47%	44%	
無回答	8%	5%	5%	5%	
家族構成1					
Intact	97%	97%	98%	98%	
broken	3%	3%	2%	2%	
無回答	0%	0%	0%	0%	
家族構成2					
核家族	83%	88%	89%	88%	
拡大家族	14%	12%	11%	11%	
不明	3%	0%	1%	1%	
出生順位					
1	28%	64%	53%	54%	***
2	25%	27%	35%	33%	
3	31%	6%	9%	9%	
4	17%	0%	1%	1%	

* $p < 0.05$
** $p < 0.01$
*** $p < 0.001$

表3 妊娠中のケア

妊婦検診	unwanted	mistimed	intended	total	chi-sqar
15回以上	17%	26%	33%	31%	**
8-14回	61%	64%	63%	63%	
7回以下	17%	7%	2%	4%	
不明	6%	3%	3%	3%	
母親教室					
5回以上	3%	10%	9%	9%	*
1-4回	28%	49%	53%	51%	
0回	67%	41%	35%	38%	
不明	3%	0%	2%	2%	
喫煙					
非喫煙者	67%	73%	83%	80%	*
妊娠中喫煙せず	6%	15%	9%	10%	
喫煙したことがある	17%	9%	6%	7%	
毎日喫煙していた	11%	3%	2%	3%	
飲酒					
非飲酒者	39%	34%	45%	42%	**
妊娠中飲酒せず	14%	30%	26%	26%	
飲酒したとあり	47%	36%	28%	31%	
毎週飲酒した	0%	1%	1%	1%	

* $p < 0.05$
** $p < 0.01$
*** $p < 0.001$

84%、intended群98%であった。前群の多くは出産までに、児を受け入れるようになっていると推定される。しかし、否定的であるものが、それぞれ8%、2%あり、3群の差は有意であった。

妊娠中のストレスについては、unwanted群、mistimed群は、自分のことで(47%、33%)、あるいは家庭内の問題で(39%、26%)ストレスや気苦労があったと回答し、intended群より高率であった。3群に有意な差を認めた(χ^2 : $p < 0.01$, $p < 0.001$)。

6. 出産について

2500グラム以下の低出生体重児は、全体で7%、3群の差は有意とはいえなかった(表5)。

なお異常分娩、児の異常

についても有意な差が認められなかった。出産に伴う費用が経済的に負担であるというのが、unwanted群(53%)、mistimed群(38%)に多く、intended群(23%)との間に有意な差が認められた(表6)。

7. 3ヶ月までの育児

生後3ヶ月までの罹病については3群に差がありませんでした。この時期の育児についての質問では、mistimed群は、「手がかからない」「比較的楽に育てられた」にいいえと回答したもの(71%)(37%)、寝付きが悪い(38%)と育児に困難を感じているものが多く見られた。unwanted群はあやすとよく笑うにはいいえというもの(22%)が多い。いずれも差は有意であった(表7)。

表4 妊娠中の気持ち

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
妊娠とわかってうれしかった					
はい	22%	58%	94%	83%	***
どちらでもない	39%	28%	5%	11%	
いいえ	36%	13%	0%	5%	
無回答	3%	1%	0%	1%	
自分のことで					
ストレスがあって大変だった	0%	0%	0%	#VALUE!	
はい	47%	33%	16%	21%	**
どちらでもない	17%	26%	26%	25%	
いいえ	36%	38%	57%	52%	
無回答	0%	3%	1%	1%	
病気をして心配だった					
はい	8%	14%	15%	14%	
どちらでもない	8%	7%	8%	8%	
いいえ	81%	76%	77%	77%	
無回答	3%	3%	1%	1%	
子どもが楽しみだった					
はい	67%	83%	98%	93%	***
どちらでもない	22%	13%	1%	5%	
いいえ	8%	3%	0%	1%	
無回答	3%	2%	0%	1%	
家庭内に気苦労が多かった					
はい	39%	26%	10%	15%	***
どちらでもない	33%	15%	17%	18%	
いいえ	28%	57%	72%	66%	
無回答	0%	2%	1%	1%	
妊娠は苦しくつらかった					
はい	19%	19%	13%	15%	
どちらでもない	31%	30%	26%	27%	
いいえ	50%	49%	60%	58%	
無回答	0%	2%	1%	1%	

表5 出生時の体重

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
1001-1500	0%	2%	1%	1%	n.s
1501-2000	0%	2%	1%	1%	
2001-2500	3%	4%	6%	6%	
2501-3000	44%	34%	33%	33%	
3001-3500	42%	48%	46%	46%	
3501-4000	3%	8%	12%	10%	
4001-	8%	1%	2%	2%	

表6 出産の経済的負担

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
負担と思う	53%	38%	23%	27%	**
負担とは思わない	47%	61%	77%	72%	
無回答	0%	1%	1%	1%	

* $p < 0.05$
** $p < 0.01$
*** $p < 0.001$

この時期の母親の精神保健を問う質問では、mistimed群が育児への不安(48%)、育児の大変さ(60%)、家族内のもめごとがあった(25%)、unwanted群は家庭内のもめ事があった(17%)と回答しているものが多く認められた。差は統計学的に有意であった(表8)。

8. 4ヶ月以降の育児と生活

発達についての質問では両群に有意な差が認められた項目はなかった。

unwanted群、mistimed群は離乳が順調ではなかったとするもの(14%、10%)が、unwanted群はさらに、自分によくなついているという質問に「いいえ」と回答したもの(6%)が多く、いずれもその差が有意であった(表9)。

9. 生活環境、夫婦間の会話

夫の役割、夫婦間の会話、相談する人など日常生活をめぐる状況についての質問では、3群に有意な差を認めなかった。ただし夫婦で話し合うことの主題と

表7 生後3ヶ月まで授乳しにくい

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
はい	14%	16%	11%	12%	
いいえ	86%	84%	88%	87%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
よくむずかる					
はい	17%	19%	10%	13%	
いいえ	81%	79%	89%	86%	
無回答	3%	2%	1%	1%	
寝つきがわるい					
はい	25%	38%	25%	28%	**
いいえ	72%	60%	74%	71%	
無回答	3%	1%	1%	1%	
手がかからない					
はい	61%	47%	59%	57%	**
いいえ	36%	52%	40%	42%	
無回答	3%	1%	1%	1%	
あやすとよく笑う					
はい	72%	93%	94%	93%	**
いいえ	22%	6%	5%	6%	
無回答	6%	1%	1%	2%	
病気がち					
はい	8%	9%	5%	6%	
いいえ	92%	90%	94%	93%	
無回答	0%	1%	1%	1%	
比較的に育てられた					
はい	78%	63%	78%	75%	**
いいえ	19%	37%	20%	23%	
無回答	3%	0%	2%	1%	
よく声を出していた					
はい	75%	89%	87%	87%	
いいえ	22%	11%	12%	12%	
無回答	3%	0%	1%	1%	

表8 出産直後の気持ち

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
達成感があった					
はい	58%	64%	71%	69%	
どちらでもない	36%	30%	25%	27%	
いいえ	6%	6%	3%	4%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
育児への不安があった					
はい	28%	48%	30%	34%	***
どちらでもない	8%	19%	23%	22%	
いいえ	64%	33%	45%	44%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
仕事のことで悩みがあった					
はい	6%	11%	5%	6%	
どちらでもない	6%	3%	4%	4%	
いいえ	89%	86%	90%	89%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
赤ちゃんがかわいかった					
はい	75%	85%	89%	88%	
どちらでもない	22%	13%	8%	10%	
いいえ	0%	2%	2%	2%	
無回答	3%	0%	1%	1%	
家族でもめ事があった					
はい	17%	25%	7%	11%	***
どちらでもない	25%	11%	11%	12%	
いいえ	58%	64%	82%	77%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
赤ちゃんの世が大変だった					
はい	39%	60%	34%	40%	***
どちらでもない	22%	22%	30%	28%	
いいえ	36%	17%	34%	31%	
無回答	3%	0%	1%	1%	
家族の育児への協力が満足だった					
はい	33%	48%	53%	51%	
どちらでもない	36%	30%	30%	30%	
いいえ	28%	23%	16%	18%	
無回答	3%	0%	1%	1%	

*p<0.05
**p<0.01
***p<0.001

して、unwanted群で子ども1
 のことをあげたものが他の
 2群に比べ少なく、その差
 は有意であった(表10、
 11、12)。

10. 母親の精神健康(表
 13)

GHQ短縮版は、12項
 目からなり、総合点を求め
 その平均を比較した。unwa
 nted群は平均3.56点、
 mistimed群は3.02点、
 intended群は2.18点で
 あった。ANOVAにより3群
 の平均点の差は有意である
 (P<0.001)。

11. CBCL:2-3歳
 用の結果

CBCLの標準化が我が
 国ではまだなされていない
 ので、ここでは、3群の平
 均得点を比較した。INTEND
 ED群は、平均30.84
 点、(SD17.45)、
 Unwanted群は、平均36.
 00点(SD22.9
 2)、mistimed群は、3
 6.13点(SD18.4
 5)でであった。3群の差
 は0.01の水準で有意であっ
 た。

CBCLの下位項目別の
 得点では、両群間に有意な

表9 4ヶ月以降の育児と生活

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
離乳は順調にすすんだ					
はい	44%	50%	60%	57%	*
どちらでもない	8%	9%	6%	7%	
いいえ	14%	10%	5%	7%	
無回答	0%	0%	1%	0%	
のしつけが順調にすすんだ					
はい	36%	45%	52%	50%	
どちらでもない	22%	13%	11%	12%	
いいえ	8%	11%	8%	9%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
自分によくなっている					
はい	56%	67%	69%	68%	**
どちらでもない	6%	2%	2%	2%	
いいえ	6%	1%	0%	1%	
無回答	0%	0%	1%	0%	
父親によくなっている					
はい	58%	60%	62%	61%	
どちらでもない	8%	7%	8%	8%	
いいえ	0%	1%	1%	1%	
無回答	0%	1%	1%	1%	
子供中心の生活である					
はい	50%	50%	53%	52%	
どちらでもない	11%	18%	15%	15%	
いいえ	6%	2%	3%	3%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
自分の時間を持っている					
はい	31%	23%	26%	26%	
どちらでもない	17%	27%	22%	23%	
いいえ	19%	19%	23%	22%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
育児への家族の協力に満足					
はい	28%	40%	36%	37%	
どちらでもない	31%	17%	24%	23%	
いいえ	8%	12%	11%	11%	
無回答	0%	0%	1%	1%	
生活が楽しい					
はい	39%	44%	49%	48%	
どちらでもない	25%	25%	20%	21%	
いいえ	3%	1%	1%	1%	
無回答	0%	0%	1%	1%	

*p<0.05
 **p<0.01
 ***p<0.001

表10 育児のサポート

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
夫の役割					
決まっている	33%	49%	47%	46%	ns
いない	67%	48%	52%	52%	
無回答	0%	3%	2%	2%	
相談する人					
いる	81%	91%	91%	90%	
いない	19%	7%	9%	9%	
夫	8%	3%	5%	5%	
父母	44%	39%	39%	40%	
友人	47%	55%	56%	56%	
兄弟	8%	9%	16%	14%	
祖父母	3%	2%	4%	3%	
先生	0%	1%	2%	2%	
医師	0%	0%	1%	0%	
近所の人	8%	15%	12%	13%	
その他	8%	7%	3%	4%	

差が認められたのは、with 1 drawn、aggressive、destructive behaviorについてであった。

12. ライフイベントについて (表15)

2年間に体験した総ライフイベント数について検討した。3群の体験ライフイベント数の差は、0.01の水準で有意であった。これについては乳児期の家族のライフイベントの児への影響の視点から、さらに詳細に検討する必要があるように思われる。

表11 生活環境

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
住宅					
1戸建て	19%	17%	18%	17%	
1戸建て2世帯住宅	3%	6%	2%	3%	
共同住宅	78%	76%	80%	79%	
住居の階数					
1	22%	23%	18%	19%	
2	50%	44%	46%	46%	
3	6%	9%	13%	12%	
4	3%	4%	7%	6%	
住居の広さ					
40平米以下	17%	11%	12%	12%	
40-66	42%	45%	47%	46%	
67-99	22%	17%	25%	23%	
100以上	17%	13%	10%	11%	
不明	3%	15%	6%	8%	
子どもの遊び場					
歩いていける	92%	94%	95%	94%	
歩いていけない	8%	5%	5%	5%	
外遊び					
必ず毎日	28%	29%	34%	33%	
4-5回/週	22%	29%	28%	28%	
2-3回/週	36%	28%	26%	27%	
1回以下/週	14%	13%	10%	11%	
不明	0%	1%	1%	1%	
近所の友達					
いる	75%	79%	82%	81%	
いない	25%	20%	18%	19%	

V. 考察:

1. 4人に1人は望まない妊娠の結果生まれてきた。

この調査では、「望まない妊娠」で生まれてきた子どもの割合は、25%であった。カナダのHalifaxでの調査では、16.2%、イギリスの報告では、3分の1、アメリカ合衆国の1990年の調査では44%が、unintende pregnancyからの出産であると報告されている。

出生児にしめる望まない妊娠で生まれた児の割合

表12 夫婦関係について

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-squar
夫婦間の会話					
毎日	58%	62%	64%	63%	
週1-2回	17%	27%	25%	25%	
月2-3回	8%	4%	5%	5%	
ほとんどない	11%	5%	4%	4%	
全くない	0%	1%	0%	0%	
無回答	6%	1%	3%	3%	
家計のこと	25%	28%	0%	7%	
子どものこと	83%	91%	95%	93% *	
レジャーのこと	25%	21%	24%	24%	
将来・生活設計	8%	20%	15%	16%	
職業上のこと	25%	22%	23%	23%	
地域社会のこと	11%	10%	12%	12%	
その他	6%	5%	8%	7%	
会話の流れ					
相互的	58%	65%	71%	69%	
自分が一方的	25%	22%	18%	19%	
夫が一方的	6%	3%	2%	3%	
意見が対立する	6%	8%	5%	6%	
無回答	6%	2%	4%	4%	
会話への満足感					
はい	39%	47%	47%	46%	
いいえ	22%	19%	17%	17%	
どちらでもない	33%	32%	34%	33%	
無回答	6%	3%	3%	3%	

*p<0.05
**p<0.01
***p<0.001

は、意図しない妊娠に対する中絶の選択と関連する問題である。1988年の合衆国におけるNational Survey of Family Growthでは、unintended pregnancyの51%が中絶に終わっていた。ちなみに、この調査では全妊娠の57%が意図しない妊娠であった。我が国では、意図しなかった妊娠の実態については、信頼できるデータを持っていない。中絶の実態が把握できないことがその大きな障壁となっている。かりにNSFGの意図しない妊娠の51%が中絶に終わるという状況をそのまま、我が国の意図しない妊娠での出生が25%である状況に当てはめると、全妊娠の40%が意図しない妊娠であると推定する事ができる。我が国と合衆国では、中絶の利用に対する国民の意識には大きな違いがあり、我が国の方が中絶を選択する傾向が強いと予測される。したがって、中絶が意図しない妊娠の約半数という数値は相当に控えめの予測値であり、実際はこれをはるかに上回っているといえる。

われわれのデータは、首

表13 母親の精神健康

	unwanted	mistimed	intended	total	chi-square
集中力	0 81%	85%	88%	87%	
	1 19%	14%	12%	13%	
不眠	0 58%	77%	80%	78%	
	1 42%	23%	19%	21%	
生きがい	0 81%	81%	86%	85%	
	1 19%	19%	13%	14%	
決断力	0 92%	96%	94%	94%	
	1 8%	4%	5%	5%	
ストレス	0 42%	42%	54%	51%	
	1 58%	58%	45%	48%	
問題解決	0 56%	71%	6%	22% *	
	1 44%	28%	19%	22%	
楽しむ	0 86%	87%	91%	90%	
	1 14%	13%	8%	9%	
積極的解決	0 86%	89%	94%	93%	
	1 14%	10%	5%	7%	
気が重い・ゆううつ	0 69%	59%	71%	68%	
	1 31%	41%	28%	31%	
自信喪失	0 50%	68%	77%	74% *	
	1 50%	32%	22%	25%	
役に立たない	0 83%	85%	92%	90%	
	1 17%	15%	7%	9%	
幸せ	0 61%	55%	66%	63%	
	1 39%	45%	33%	36%	
					*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001
GHQ-score					
MEAN	3.56	3.02	2.18	2.42 *** (anova)	
SD	2.83	2.69	2.43	2.54 p<0.001	

表14

子どもの情緒と行動の問題

	unwanted	mistimed	intended	total	ANOVA
CBCCL					
TOTAL SCORE (MEAN)	36	36.13	30.84	32.18 **	
(SD)	22.92	18.45	17.45	18.08	
ANXIOUS/DEPRESSED	4.03	4.75	4.13	4.31	
	3.45	3.31	3.11	3.22	
WITHDRAWN	3.78	3.08	2.39	2.6 **	
	4.04	2.89	2.66	2.81	
SLEEP PROBLEMS	2.92	2.76	2.50	2.57	
	2.14	1.84	2.11	2.06	
SOMATIC PROBLEMS]	2.83	2.65	2.31	2.4	
	1.89	2.6	2.05	2.17	
AGGRESSIVE BEHAVIOR	8.8	9.25	7.86	8.18 *	
	6.72	5.48	4.89	5.14	
DESTRUCTIVE BEHAVIOR	4.06	3.92	3.38	2.43 *	
	2.99	2.36	2.43	2.4	
INTERNALIZING	7.82	7.77	6.50	6.81 *	
	7.14	5.57	5.15	5.37	
EXTERNALIZING	12.86	13.14	11.26	11.71 *	
	9.1	7.15	6.74	6.99	
					*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.001

表15 ライフイベント

	unwanted	mistimed	intended	total
	5.89	5.75	4.92	5.32 **
	3.23	3.31	3.10	3.17 p<0.01

都圏の1つの市部での調査で得られた者である。中絶の選択、男女関係についての社会的許容は、都市部と郡部など地域による違いが予測される。したがって、望まない妊娠で生まれる子どもの割合は地域差が存在すると予測される。これについては、いくつかの地方都市との違い、郡部の町村を対象に今後さらに調査を行う予定で準備を進めている。

2. 「望まない妊娠で生まれた児」を持った家族について

さてこの調査結果では、16人(2.2%)が単親家庭であった。単親家庭の割合は3群の間に有意な差が認められなかった。このことは、2-3才のときに単親であることと、望まない妊娠で生まれたということには統計学的に関連があるということとはできないことを意味している。研究協力者野田が妊産婦を対象に調査した結果では、mistimed群では妊娠と分かってから婚姻届けを出す例が多かった。この結果は婚姻関係が成立しない場合には我が国では出産を選んでいない可能性が高いことを意味している。多くの研究で、婚姻状態はのぞまない妊娠の関連要因であることを示している。

児の出生順位についてみると、子どもを持つことを望んでいなかったものの、約半数は第3子以上で、misitimed群は3分の2が第1子であった。すなわち、それぞれの群の特徴は、2人の子どもを持っていた家族に予定外の子が一人加わった、あるいはまだ子どもを持つには早すぎると思っているうちに妊娠したという図式で表すことができる。一方、この図式には該当しないもの、つまりunwanted群で約4分の1をしめる第1子は、子どものいない生活を望んでいた中での出生であり、異なった問題である可能性がある。この点についてはさらに対象数を増やし、検討を加えることが必要である。

母親・父親の年齢についてみると、unwanted群は高齢群、mistimed群は逆に20代という若年の親が多かった。これは上に述べた出生順位と強く関連しているといえる。またあらゆる年齢群でunwanted, mistimedの児を持つものはおり、それぞれが意図しない妊娠であったという意味が異なると推定される。これらについてはさらに分析を加えることが必要である。

3. 意図しない妊娠がもつリスクについて：不十分な妊娠中のケアから生後に引き続く精神保健への影響

妊娠中のケア：意図しない妊娠は、妊娠中のケアの欠如、妊娠中のリスクとなる生活行動、低体重出生、乳児死亡、児の成長発達の遅れなど悪影響が生じることが指摘されている。また父親や母親にも心身の健康、経済状態などのマイナスの影響を与えがちであるといわれている。

意図しない妊娠に直面した母親が十分な妊娠中のケアを受けない理由にはいくつかの理由がある。妊娠の継続に両価的である、妊娠の徴候に気づかない、経済的な理由などが考えられる。

意図しない妊娠と不十分な妊娠中のケアに関連があると多くの報告がなされている。子どもを持つことを望んでいなかったり、予定していたより早すぎた妊娠をした女性は、産科医に受診し、妊娠のケアを開始するのが遅くなり、適切なケアをしないことが多い。計画的な妊娠の女性にくらべこれらの女性は妊娠の4ヶ月以降にはじめて受診するものが、1.1から2.6倍に上ると報告されている。妊娠中のケアが適切であるというためには、早期に妊娠のケアを開始するだけでなく、出産までの全期間を通じて継続して検診を受けることが必要である。意図しない妊娠では妊娠中の検診を受ける回数が少ないことを示した報告は多い。この調査においても、7回以下の検診回数である者が多いことが示された。これは先の初診開始の遅ればかりでなく、家族あるいは地域のサポートが関連しているとの指摘がなされている。

喫煙・飲酒：妊娠中の喫煙・飲酒が胎児の発育に有害な影響を与えることは広く知られている。意図しない妊娠の場合、妊娠中の喫煙・飲酒経験は予定の妊娠であるものよりも30%高いという報告がなされている。この調査では、unwanted群において妊娠中の喫煙経験のあった者が有意に多いという結果がえられたが、mis-timed群ではintended群との間に喫煙件数に差が認められなかった。これは日常から喫煙習慣のないものについてのみ検討しても変わらなかった。飲酒については、日常飲酒するものについてのみ検討すると、妊娠中の飲酒者はunwanted群が77%であり、mis-timed群は55%、wanted群で53%とやはり高率であった。unwanted群は妊娠に気づくことが遅れることも飲酒や喫煙経験が高いことに関連するのかもしれない。

低体重出生児：意図しない妊娠が低出生体重児を出生する危険率を検討した研究では、一致して、意図した妊娠での出生率を1とすると対し、1.2から1.4の比であると報告している。また、NSFGの調査から意図しない妊娠をのぞくと、低体重出生児の発現が4から7%減少させることが出来ると言及している。この調査では、意図しない妊娠での出生と意図した妊娠での出生児との間に低出生体重児の出現の違いが見られなかった。この要因についてはさらに検討を加えなければならない。

妊娠中の疾患や服薬、出産時の合併症：妊娠中の罹病、服薬、あるいは出産時合併症の有無について検討したところでは3群に有意な差を認めなかった。

3群にとって意味のある重要な違いが認められたのは、妊娠中の気持ちに係わる部分であった。妊娠中自分のことで、あるいは家庭内に気苦労が多くて大変だったというものがunwanted群とmis-timed群では約3人に1人、から2人に1人が該当すると回答していた。mis-timed群は、意図しない妊娠であったとはいえ、妊娠と分かったとき、うれしかったものが約半数、生まれてくる子どものことが楽しみだった80%、unwanted群は66%みられ、時間の経過とともに、児を受け入れる感情が明らかになっていった。そして生後3ヶ月の間に、それぞれ75%、85%が赤ちゃんがとてもかわいいと感じたといえるまでに変化していく。

一方、unwanted群では、乳児期から幼児期早期に母親と児の間に相互的な交流の乏しさ、

愛着関係の希薄さを伺わせられた。unwanted群では、GHQ得点から調査時点での母親の精神健康の問題と、家族が体験したライフイベント数の多くストレスフルな状況が続いていることが明らかになった。また子どもは、2-3才時点で情緒行動問題、とくにひきこもり、攻撃性、破壊性行動が多数見られていた。これらのことは、母子の精神保健に与えている影響の重大さを示唆している。

VI. 今後の課題

乳幼児を含めたリプロダクティブヘルスの研究は、おそらくはじめてのものである。この調査は、望まない妊娠で生まれた子どもとその母親についての我が国でははじめての体系的な調査である。この結果は、該当する児は、4人に1人という予期した以上の高い割合であることを示している。2-3才という幼児期早期においてこれらの子どもは、より多くの攻撃的・破壊的な行動を示しており、母親は精神健康に関する訴えをより多く持っていることが示された。これらの背景に、母親が多くのストレスフルな出来事にさらされている状況もうきほりになっている。

今後の課題としては：

①これらの事実をふまえた、母子保健活動を推進することが、急務である。望まない妊娠から出産・育児の中での解決されなければならない問題は、出産に至るまでの心理的ストレス・育児への不安・育児への関心の低下などがあり、出産育児の経済的負担がこれを一層深刻にしていると思われる。

②望まない妊娠で出産を選ぶに至るまでのプロセスを明らかにし、これを支えるための手がかりを得る。このプロセスでは、母親の意識だけでなく、父親の意識、両者の関係について明確にすることが必要であろう。

③望まない妊娠で出生した児を含む家族の形成を縦断的に調査し、安定した家族関係の成立を促進する要因と、阻害する要因を明らかにする。

参考文献

Brown S. S. & Eisenberg L. (ed): Consequences of unintended pregnancy in The Best Intentions. National Academy Press, Washington, 1995.

上林靖子：望まない妊娠で生まれた子どもと母親—研究への視点—厚生省心身障害研究望まない妊娠等の防止に関する研究、平成6年度報告書、175-194, 1995.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 首都圏の市部の住宅地区で2-3才児を持つ母親を対象に児と母親の精神保健について郵送法により調査を行い、726人(66%)からの回答を得た。妊娠時の子どもを持つことについての意識より、unwanted群、mistimed群、intended群に分けて、人口統計学的変数、妊娠中のケアから現在までの児と母親の心身の健康について分析した。その結果以下の所見を得た。(1)unwanted群5%、mistimed20%で4人に一人は望まない妊娠の結果生まれていた。前者は主として第3子-4子高年の母親で、後者は第1子で若年の母親であった。(2)これらの群は妊娠中の検診や母親学級の利用が少なく、飲酒・喫煙の経験多く、心理的なストレスを多く体験していた。(3)mistimed群は育児に不安と負担感を強く感じており、unwanted群は児との関係が希薄である傾向があった。(4)両群は出生後にもストレスとなる体験が多かった。(5)これらの母親は調査時点で、神経症的な訴えを多く有しており、児は攻撃的・破壊的な問題行動を示しているというものが多かった。これらの結果を基に、望まない妊娠で生まれた児と母親の家族と精神保健的リスクについて考察した。